



令和五年度 卒業記念号

## 旅立ちの季節

関西金光学園

金光藤蔭高等学校

第七十六期生

令和六年三月五日

# ご卒業 おめでとうございます



## 『もう一つ、大事にしたいもの』

理事長 湯川 彌壽善



本学に学び、卒業を迎えられた皆さんに、心よりお祝いを申し上げます。おめでとうございます。皆さん方一人ひとりが、こうして卒業を迎えられたことを、一緒に喜び合いたいと思います。本学に学び、卒業を迎えられた皆さんに、心よりお祝いを申し上げます。おめでとうございます。皆さん方一人ひとりは、本学とご縁があつてつなごうとした方々です。改めてそう思います。今日、最後の日を迎えた皆さん方にも、「ああここに縁があつたんだな」と思っていただけのように、私どもは三年間願いをかけてまいりました。

養老孟司(ようろうたけし)という方がいます。肩書きは解剖学者ですが、言論の世界で「まあこの人の言うことならちよと聞いてみようか」と思わせるような人物というのか、そういう面で、いわゆるフォロワー的な人を多く持つような人だと言えよるしいでしょう。か。一例ですが、過去に日本の首相が病気で倒れ、トップ不在となる期間があつたと後で分かつて、「危機管理はどうなつてゐるのか」という批判が一斉に出ました。その時「管理できないから危機なんだ」という物言い、養老氏がしていたことを思い出します。さて最近新聞に、この方が書いたエッセイ集の広告が載っ

ていました。あとがきの一部が紹介されていて、こうありました。「最初にブータンを訪問した際、ビールを注いだコップに飛び込んだハエを指先で救いだして、『お前のお爺(じい)ちゃんかもしれないからな』と笑つて私を見た連れのことが忘れられない。現代の日本人は物事にこういう解釈をしない。だから退屈するのであろう」。こういう文章です。

コップから救いだしたハエを「お前のお爺ちゃんかもしれないから」と言った、この意味はお分かりだろうと思ひます。コップのハエは、お前のお爺ちゃんかもしれないからかもしれないという意味でしょう。そういう感覚を持つてゐるから指先ですくつて助けただ、という話だと分かります。養老氏は「初めて出会つた人と一匹のハエが、何かのご縁をつないでいると思へたら、その分世界は豊かになるに違いない」という言い方をしてゐました。

今の最後の言葉「その分世界は豊かになる」とは、どういうことでしょうか。皆さんが今日の卒業までに、本学で学んだことはたくさんあるでしょう。学業や専門性の修得だけではありません。皆さんが明日から、それぞれの人生を歩むために必要なスキルを様々な身につけていく、そういう学びであつたと思ひます。

その中で、主に宗教科の授業を通して「心を研(みが)く」「心を鍛える」「心を豊かにする」といった言い方で、折々に伝えようとしてきたことが本学にはあります。学業が学校生活における中心的な学びだとすれば、これは学業と学業の間に位置する、隙間(すきま)の学びのようなものでした。そこには「皆さん方が見てゐる世界を、少しでも豊かにする」という願いが込められてゐました。抽象的な

言い方しかできませんが、人間としての幅を広げる学び、ということ。養老氏によれば、「豊かな世界」の反対は「退屈な世界」ということになりませう。どうぞ人、物、環境への思いやりをもつて、豊かな心で豊かな人生を歩んでください。そのことをお伝えして、皆さん方を送る言葉といたします。

## 『二〇三〇年の社会』

校長 武田 充広



三年間の高校生活を乗り越え、岐路に立つ皆さん、卒業おめでとうございます。日本では旧暦三月を「弥生」と呼びます。その由来は、草木がいよいよ生い茂る月「木草弥や生ひ月(きくさいやおひづき)」を意味します。

草木が伸びるように、一段と成長した姿で、次のステージを迎えてほしいと思ひます。今年度も、国内外でたくさんニュースがありました。地震や火災などの大規模災害、詐欺や闇バイトなる新種の犯罪、大麻など薬物問題、物価の上昇、政治とお金の問題など暗いニュースが多い反面、WBC優勝や大谷選手、HR王・MVPの活躍、将棋の藤井聡太氏の八冠制覇、38年振りの阪神優勝などが印象に残つた出来事でした。コロナが五類感染症となり、街に人が溢れ、インバウンドが戻つてきたのも明るい材料です。

さて、これから大人への階段を駆け上がったいく卒業生の皆さん、社会は猛スピードで変貌していきます。皆さんが25歳になる二〇三〇年の社会はどうなつてゐるでしょう。あるメディアサイトが配信した『二〇三〇年の世界・知っておきたい九つのメガトレンド』には、現実味の高いものから以下のように並べられています。

- ①人口動態(世界の人口が85億人に達する)
  - ②都市化(人口の3分の2は都市部へ居住・メガシティ)
  - ③透明性(プライバシーの括りが低下・追跡・監視)
  - ④気候変動(異常気象・平均気温の上昇・海面上昇・生態系の変化)
  - ⑤資源不足(鉱物資源・水・リサイクル)
  - ⑥クリーンテック(脱炭素・EV化)
  - ⑦テクノロジ・シフト(AIの進化)
  - ⑧国際政策(政策とビジネス・貿易戦争・サステナビリティの推進)
  - ⑨ポピュリズム(権力構造やエリート層を批判し、主張の実現を目指す政治運動)
- ※(サステナブル・ブランドジャパン 配信)
- 以上の中から、皆さんの将来に大きく影響するであろう『テクノロジ・シフト』について考えてみましょう。
- AIの進化に伴い、二〇三〇年までになくなる、または需要が激減する代表的な職業は、以下のとおりです。電車や路線バスの運転手、一般事務職、受付係、レジ係、プログラマー、警備員、銀行員、オペレーター、経理担当者、モデル、通関士、etc. 反対に、なくなるに考えられてゐる職業は、医師、看護師、教員、保育士、ソーシャルワーカー、介護士、作業療法士、エンジニア、クリエイター、コンサルタント、etc. 以上の子測がされています。今ある

仕事の50%がAIによってなくなつてしまふと考えられてゐます。しかし、人間でなくては務まらない仕事も多くあるはず。これから先の未来は、今まで以上に加速度的に変貌していくことでしょう。皆さんは、自分の人生設計、職業選択をこれからどうすればよいのでしょうか? その日はそう遠くありません。

これからの社会は、SDGsに代表されるように、サステナブル(Sustainable)な社会に適応した生き方が必要とされています。サステナブルとは地球の環境を壊さず、資源も使いすぎず、未来の世代も美しい地球で平和で豊かに、ずっと生活し続けていける社会を持続可能にすることです。自然環境や社会と共生するような営み、仕事選び、ライフワークの実現を目指して自分をしっかりと見つけてください。

今日からが本当の始まりです。自分を甘やかすことなく、突き進んでいってください。何事も決してくじけないこと、諦めないこと、社会を学習すること、人を幸せにすることを心がけてください。

皆さんの幸多き未来へ向けてこの言葉を送ります。

『人の道を守らない人間、親を大切にしない人間、恩ある人に砂をかける人間に、運はついてこない』

(樋口武男・致知出版より引用)







# 卒業生の言葉

## 特別進学コース

### 【感謝】

一組 近藤 仁

(大阪市立難波中学校)  
追手門学院大学心理学部進学



高校の勉強に不安があった私は、中学校の進路選択時に金光藤蔭のエンカレッジコースを選びました。しかし二年生に進級する際、担任の先生から特別進学コースに転入してみないかと誘われ、自分の実力はどれほど通用するのか見極めてみようと思ひ、転コースを決意しました。特別進学コースでは、それぞれの受験する大学は違えども、みんな合格をつかみとうとうと団結して授業に臨むことができたので、家で受験勉強をしていた不安になった時でも、クラスのみんなが頑張っているから、私も頑張ろうと思うことができました。

その結果、不合格だった大学に再チャレンジし、第一志望の合格通知をもらうことができました。今考えてみると、クラスの励ましがなければ合格できなかったと思います。私は金光藤蔭でできた仲間感謝して、新たな一歩を踏み出そうと思います。

### 【継続力】

一組 森下 結生

(大阪市立西淀中学校)  
京都産業大学経済学部進学



私は中学生の頃から大学へ進学したいという思いがあり、受験勉強に専念できる特別進学コースに入学をしました。

ここでののはじめの一年間は中学校の復習が多く、特に英語の勉強をしてこなかった私にとって大変な毎日でした。しかしそれでも諦めずに予習や復習、英単語の暗記を続けたことで、二、三年生では少しずつ授業の内容が理解できるようになり、勉強に自信が湧いてきました。また、入試対策講座や模擬試験に参加したことでさらに英語力が上がり、その結果、志望大学に合格することができ、「継続力」の大切さを実感することができました。

私は金光藤蔭の三年間で学んだことを胸に、充実した大学生活を送りたいと思います。

## エンカレッジコース

### 【未来に向けて】

二組 杵岐 虹水翔

(八尾市立大正中学校出身)  
阪南大学経済学部進学

私は、中学時代あまり学校に通えていない不登校生でした。そんな中で、高校進学の際、進路を決めるときに勧めてもらったのが金光藤蔭高校のエンカレッジコースでした。

一年生の頃は新型コロナウイルスの影響で、午前だけ授業午後から授業などの半日登校の日が多かったので、少しずつ学校生活に慣れていくことができました。その結果もあって、三年間頑張ってきた『今の自分』があると思います。

三年生に進級してからは入試対策講習に参加し、進学に向けて懸命に準備をしてきました。大学に合格することができました。本校で学んだことを活かして、大学に進学してからも頑張っていきたいと思っています。



### 【高校を経て】

三組 大橋 珀斗

(大阪市立天下茶屋中学校)  
大阪商業大学経済学部進学



えるきっかけになりました。今まで自ら進んで動くということをしてこなかったのが、主体性を求められる役割を経験することができたことに感謝しています。この経験はこれから大学や社会に出てからも絶対に役に立つことだと思っています。

私は、進学の際に本校を選び入学したことで自分を変えることができました。三年間ありがとうございました。

## ITライセンスコース

### 【努力は結果で表される】

四組 山中 誠実

(大阪市立都島中学校出身)  
大阪電気通信大学総合情報学部進学



私が本校で頑張ったことは資格取得です。理由は身につけた知識や技術の証明となるだけでなく、進学するための大きな武器になると考えたからです。積極的に挑戦したのは、高校二年生の秋からでしたが、三年生の夏休みまでにプレゼンテーション作成検定試験一級、情報処理技能検定準一級、日本語ワープロ検定二級、ホームページ作成検定三級を取得することができました。その結果、指定校推薦で大阪電気通信大学に無事、合格することができました。

卒業後は、プログラミングやメタバースに関する知識を深め、将来はSNSで活躍している人達を支える職に就きたいと考えています。最後にお世話になった先生方や友人、この三年間、陰で見守ってくださった家族には本当に感謝しています。ありがとうございます。

### 【社会に羽ばたけ】

四組 武田 凌悟

(東大阪市立盾津東中学校出身)  
近鉄スマイルライフ株式会社就職



私が就職という大人の तरीに足を踏み入れた理由は、少しでも早く人の役に立ちたいと考えたからです。中学から就職しても良かったのですが、自身のスキルアップができるITライセンスコースに私は入学しました。三年間を振り返ると金光藤蔭に来て本当に良かったです。それは、多くのことが学べ、みんなに出会えたからです。

就職試験は思ったよりも簡単に内定を勝ち取ることができました。これは担任の先生のおかげです。また、面接の時は、「誰かに必要とされる人間になりたい」と答え、趣味についての質問では面接官から「好きなキャラクターは」と聞かれ、「ガンダム」と答えました。三名の面接官がざわめいた。そこからガンダムトークで盛り上がり、これまでも誰にも理解されなかった趣味が初めて理解されて、とても嬉しかったです。私は進学するみんなよりも

早く社会に飛び立ちます。  
さあ、卒業するみんなも翼をひろげて夢に向かい、大きく羽ばたいていきましょう。

## アートアニメーションコース

### 『好きを追求する旅』

五組 喜多村 祐子  
(堺市立八下中学校校出身)  
放送芸術学院専門学校進学



私は幼少期からアニメを見るのが大好きで、声優になることが夢でした。周りからは否定され続けましたが、諦めずに夢を追うために本校を選びました。声優授業での演技や感情表現の指導などは特に厳しく挫折しそうにもなりましたが、夢への第一歩を歩み始めたのだと思うと、厳しさを楽しめるようにもなりました。しかし、専門学校見学の際、何となく少し気になったライブイベント制作コースの話聞き体験授業を受けたことで、夢が変わりました。舞台やライブに行くことも好きで、音や光の演出を楽しみむ側であった私は、その時、アーティストを輝かせる演出側の役割を知り心が揺さぶられました。卒業後は映像や照明などの技術を学び、現場で活躍する力を身につけ、演者も観客も感動させられるような舞台演出を目指したいと思います。長年抱いていた夢が変わった

ように、これから先、何が起るかわかりませんが、私は、好きなことや興味あることが仕事や夢につながる人生を歩みたいと思っています。これから好きを追求する旅は続きます。「行ってきます。」

### 『製作と共有』

六組 樋口 一  
(大阪市立鯉江中学校校出身)  
大阪芸術大学芸術学部進学



私は高校生活を通して、自分の意見やアイデアを他人に共有する大切さを学びました。将来アニメーションや映像製作に携わりたいと思っていました。日頃から構想やアイデアを考えていました。高校入学前までは考えたアイデアを他人に伝えることはなかったのですが、高校生になってからは、高専生になってからはしっかり伝えていこうと決めていました。二年生の文化祭で映画製作をするので決まった時にはカメラワークや動画編集など、考えていたアイデアをクラスメイトに共有し、お互いどのような考えを持って取り組んでいるかを認識することで良い映画作品を作り上げることができました。高校三年間で培った経験を大学やその後の進路に繋げられるよう取り組んでいきたいと思っています。

## ライフクリエイティブコース

### 『人の温かさと、自分の可能性を学びました』

七組 中島 仁  
(東大阪市立上小阪中学校校出身)  
辻学園栄養専門学校進学



私は中学時代、一人で過ごすことが多かったのですが、高校では友達ができるのかな、と不安をかかえたまま入学を迎えました。しかし、入学後、すぐに同じクラスの子達が私の名前を呼んでくれて、新しい友達が出来ました。その時の嬉しかった気持ちは、今でも鮮明に覚えています。

それがきっかけとなり、私の高校三年間は、素晴らしいものに変化していきました。

私の所属するライフクリエイティブコースでは、調理の専門学校の先生が講師として来校され、本物の料理を学べる実習があります。私は、クラスメイトと一緒に、その時間にもめり込んでいきました。また私は、三年生になってから、「ぶぐ処理師試験」にもチャレンジし、見事に合格を勝ち取ることができました。

進路は、授業でお世話になった、辻学園に進学します。そこで栄養学を学び、将来は管理栄養士を目指す覚悟です。あつという間の三年間でした。みんなとは、これから別々の道を進むことになりましたが、

私自身も、この三年間、みんなからもらった温もりを胸に、人に温もりを与えられるような人間に成長していきたいと思っています。

### 『自分の直感を信じて』

七組 津川 楽哉  
(東大阪市花園中学校校出身)  
株式会社かに道楽就職



私は高校に入学した時から、卒業後は、就職する事を自分の目標としていました。しかし、月日が経つにつれて、周りの友達の影響もあり、自分の目標にズレが生じ始め、進学することも考える様になりました。ところが、三年生の夏、就職体験に参加した際、自分の考えは間違っていないかったことを確信し、就職することを決意しました。

その後、担任の先生の協力もあり、私は「株式会社かに道楽」から、「ご縁をいただくことができました。大阪に住む人なら誰もが知っている大企業に就職できたことを誇りに思います。私を導いて下さった先生方や、金光藤蔭高校で学んだ三年間に感謝し、これから努力を重ねていこうと思います。

### 『三年間とこれから』

八組 鈴木 志菜  
(大阪市立東中学校校出身)  
大阪国際大学人間科学部進学



私の三年間の生活はとても濃い内容でした。私は中学時代あまり親しい友人もおらず、クラスに馴染めていませんでした。そんな時に金光藤蔭高校を見つけ、ここでならまた一から頑張れるのではないかと思い入学しました。入学当初は不安でしたが、徐々に友人も増え、苦手だったコミュニケーションも今では男女関係なく接することができるようになりました。勉強面での不安もありましたが、先生方とも親しく会話できるようになり、放課後に残って教わったり、周りのサポートのおかげで二年生の頃から成績が上がりました。大阪国際大学の指定校推薦をいただくことができました。進学後は心理学部で勉強し、子どもたちと関われるような仕事に就きたいと思っています。この三年間、壁にぶつかった事もありましたが、多くの人のサポートのおかげで充実した高校生活を送ることができました。ありがとうございました。

### 『努力の三年間』

九組 堂島 和樹  
(東大阪市立花園中学校校出身)  
奈良大学文学部進学



私は中学時代、周囲との授業ペースについていくことができず、勉強に取り組む意味を完全に見失っていました。本校では、中学時代についていけなかった授業を学び直すことができると知り入学を決意しました。高校一年、コロナの影響による分散登校や授業のペースについていけるか不安もありましたが、地道に努力を続け、授業内容を理解できるようになりました。二年生に進級してからは、今後の進路について考えるようになり、夏休みを利用して、オープンキャンパスに積極的に参加しました。三年生に進級後は、毎日放課後に教室に残り、自習も兼ねて大学入試の準備に取り掛かりました。その努力が結び、志望大学に合格することができ、学級内席次で一位を取ることができました。正直自分でも驚きましたが、私が三年間積み重ねてきた努力は決して無駄なものではなかったんだなと思いました。

## トップアスリートコース

### 『三年間で得た二つのこと』

十組 小林 燎牙  
(大阪市立緑中学校校出身)  
株式会社フード物語就職



進学後も努力を惜みず、大学での四年間を素晴らしいものにしていきたいと思います。



私が高校三年間で得た事は、人との関わり方と物事の考え方です。私はもともと人付き合いが苦手で、高校入学時もちんちんと挨拶ができていたかどうかが不安で心配でした。しかし先輩達はそのような私にとっても優しく気軽に声を掛けてくれました。私はその時、自分が礼節をきちんと守って接すれば、相手と良い関係が築けるのだと学びました。それから、きちんと挨拶をし、自分も相手も気持ちが良い関係を築けるようにしていこうと心がけてきました。また、私は卒業後、就職します。私はラグビー部に所属していましたが怪我が多く、二年生の時は、柔道整復師を目指していました。しかし、三年生になり、より具体的に進路について考え調べていくにつれ、自分は本当に今すぐ進学し柔道整復師を目指したいのか、よく考えるようになりました。最終決定に至るまで、たくさん悩みましたが、その結果、本当にしたいことは調理関係の仕事であるという自分の正直な気持ちと出会うことができ、就職する事にしました。この経験を通して自分のしたい事、その必要性、それをいつやるのか、をよく考えるようになりました。高校三年間で得たこの二つのことを社会に出ても活かして行きたいと思っています。

### 【文武両道を目指して】

十組 森 花奏  
(岸和田市立久米田中学校出身)  
大阪体育大学スポーツ学部進学



私は、高校三年間で沢山の事を経験し学びました。ソフトボール部に所属していましたが、一年生の頃から試合に出させていただき、高校のソフトボールの難しさと勝つ事の難しさを感じました。緊張で周りを見ることも出来ず、沢山先輩方に支えられました。二年生では、後輩ができて少しづつ周りを見る事ができるようになりました。そして、三年生が引退し、新チームとなり、私は主将を務めました。なかなか思うようにいかないことや悩みも多く、チームをまとめ引つ張る事の難しさも学びました。何度もチームメイトに助けられ、インターハイに三年連続出場、選抜大会に一度出場することができました。インターハイの結果はベスト16で、主将として優勝までチームを引つ張る事はできなかったですが、全国大会という舞台に出場できたことがとても良い経験になりました。学校生活では、顧問の先生からは、ただ部活をするだけではなく、挨拶や授業態度などに気を配り「応援されるチーム」になる、という事や、人として大切な事を沢山教えてもらいました。そして、自分が好きなスポーツに打ちこめたこの環境にとっても感謝でいっぱいです。大学に進学してもこの三年間、金光藤蔭で学んだ事を忘れず将来の目標に向かって文武

両道を目指して一生懸命頑張ります。

### 【感謝の気持ち】

十一組 竹本 暖生  
(大阪市立文の里中学校出身)  
芦屋大学臨床教育学部進学



私は、この三年間の部活動でたくさん学ばせていただきました。成長することができました。サッカー部に所属していましたが一年生の頃から、試合に出場させて頂き、三年生ではキャプテンとしてチームを引っ張りました。しかしながら、ケガをすることも多く、サッカーをすることができない期間もありました。それでも私は、自分がチームのためにできることを探し、チームが勝つために、雑用など裏方の仕事にも頑張ったり取り組み、同時に復帰に向けてたりハピリにも一生懸命取り組みました。最後の大会は、二回戦で負けて、すごく悔しい結果に終わってしまいましたが、キャプテンとしてチームの先頭に立って頑張れたのは、多くの人の支えがあったからだと思います。私は卒業後も大学に進学し、サッカーを続けていこうと思っています。進学後も、これまでお世話になった両親や先生などたくさんの方への感謝を忘れず、頑張っていきたいと思っています。

### 【母への感謝】

十一組 吉川 颯  
(京都市立藤森中学校出身)  
関西学院大学経済学部進学



私は、高校三年間で「必ず全国大会に出場する」という目標を立て、柔道の練習に励んできました。私が入学した金光藤蔭高校は、柔道の強豪校で練習が厳しいという事は入学する前から覚悟していましたが、その想像を超える厳しい練習が待っていました。三年間の中で、何度か壁にぶつかり、心が折れそうになったこともありましたが、しかし、その都度、朝練のために毎朝四時に起床して、弁当を作ってくれてくれる母の顔を思い浮かべること、この気持ちを切らさず立ち向かうことができました。その結果、部内でレギュラーを勝ち取り、大阪で優勝しました。そしてインターハイ、国民体育大会に出場することができました。これは、自分が全力で柔道に取り組めるようサポートしてくれた母や、ともに切磋琢磨してきた仲間たち、そして毎日厳しく稽古してくださった先生方のおかげだと思っています。高校卒業後は、大学に進学し柔道続ける予定です。高校生活で培ってきたことを活かし、更に良い結果を残せるよう頑張っていきたいと思っています。

## 卒業生へ お祝いの言葉

### 【卒業おめでとうございます】

PTA会長

中田 由美



三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんの高校生活は、コロナ禍真只中で始まり、二年間は活動制限があり、思っていた学校生活ではなかったかもしれません。

しかし、二〇二三年度は制限から解放され躍動する一年になったのではないのでしょうか。学校イベントでは、今まで蓄えていたエネルギーを勢いよく解放し笑顔と歓声にあふれている光景を見ることができました。

さて、これから卒業される皆さんは、自分で選択した道を歩き出します。新しい出会いや積み重ねていく経験は、ここから先の未来を優しく、ときに厳しく変化させます。しかしそれは、エネルギーを蓄え解放させるための準備です。どんな変化にも臆することなく一歩一歩前進してください。その姿は、皆さんと関わるすべての方々に感動を与えることでしょう。この先に幸多きことを祈り、お祝いの言葉とさせていただきます。

### 【卒業生に向けて 理想を現実に】

同窓会会長

西口 まゆみ



春の訪れを待ちわびている今日の良き日に、卒業をむかえられました皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

高校生活はいかがでしたか。コロナ禍が完結していない中で、の高校生活には、経験できなかったさまざまな思い出もたくさん浮かんでくるかと思えます。「卒業」という節目に今一度振り返ってみてください。

さて、入学式から卒業式まで、皆さんは保護者の方に支えられ、友人に支えられ、先生方に支えられ、そして何よりも自分自身のがんばりで三年間を歩んできました。このさまざまな経験は今後の皆さんの人生の大きな糧となることでしょう。これからはさらなる自己実現、そして社会を形成するに欠くことのできない人間となるよう、より一層多くの知識を得て、さまざまな経験を積み、成長を続けて下さい。

藤蔭高校を巣立つ皆さんに幸多かれとお祈りいたします。最後になりましたが、母校であるあたたかい学び舎を訪れて下さい。同様に同窓会にもぜひ参加していただけること、役員一同心よりお待ちしております。

# 第3学年教員の言葉



## 「人生ここから勝負」

第三学年部長 九組副担任  
吉村 浩一



三年生の皆さん卒業おめでとう。金光藤蔭高等学校での三年間はどうか。私は一年から持ち上がりましたが、本当にアツという間だったというのが本心です。

令和三年四月の入学式に始まり、学年の行事では香芝キャンパスでの体力測定、学年DAY、学校行事では郊外学習、体育大会、藤蔭祭、コースウィーク、芸術文化鑑賞会と楽しんだ日々が懐かしく思われます。二年生の二月には北海道への修学旅行で宿泊を伴いながら普段の学校生活とは違い、学年集団でより人間関係を深めることもできました。

話は尽きることはありませんが、皆さんの人生ここからが本場のスタートです。大学、短大、専門学校へ進学する者、社会人として就職する者、いずれにしてもこの先試験は山ほどあるはず。本校で身につけた「生きる力」を存分に発揮し、人生を歩んでください。そして今後の皆さんの更なる飛躍に期待しています。

最後にこの日を迎えられた保護者、ご家族の皆様にも感謝と喜びの意を表し新しい門出へのご挨拶いたします。

## 「つながり」

一組担任  
北村 晃一



ご卒業おめでとうございます。君たちと関わった三年間を振り返ってみると、一言で表現できないほどたくさんの記憶が蘇ります。今思えば、入学式の朝礼で「今日は君たちが主役だから、胸を張ってかっこよく式に臨もう」と話したのが僕の初担任の最初の言葉だったと思います。それに応えるかのように、緊張した面持ちながらも堂々と入退場するみなさんの姿を思い返しました。そこから三年、こうして君たちの顔を思い浮かべると、その成長の証がしっかりと刻み込まれているのを感じます。君たちの卒業式に立ち会えることに感謝の気持ちでいっぱい。さあ今日もまた、君たちが主役です。

さて、皆さんは今、何を思い出しますか。友達と過ごした日々や体育大会、藤蔭祭など、たくさん思い出が蘇ってくるのではないのでしょうか。そしてそのすべてのシーンには、自分だけではなく、友達や先輩、後輩、保護者の方や我々教員が映り込んでいます。つまり、みなさんが過ごした日々は、他の誰かとともに歩んだ軌跡でもあるのだと思います。楽しくて笑顔あふれる瞬間に、そばに誰かがいたのはもちろんのこと、悩み苦しんだ日々さえも、誰かの存在が支えになり、今日こうして卒業を迎えられる自分がいることに自信を持ってください。そしてここで築き上げたつながりと、人の支えに感謝しつつ、次のステージでもさらに強いつながりを築き、楽しい思い出をたくさん作ってください。

## 「自分らしさを大切に」

二組担任  
東 優生子



みなさん、卒業おめでとうございます。これから自分で選択した人生を歩み始めるみなさんに、私から伝えたいことが三つあります。

一つ目は感謝の気持ちを忘れないこと。ありがとと言われると嬉しい気持ちになりやすいね。そんな風に人を幸せにできる優しい人になってください。

二つ目は悩んだり辛くなったり、すぐに投げ出すのではなく少し立ち止まって考えてみる。辛い時こそ自分や自分の周囲のことをよく見てみてください。周囲の優しさや自分の恵まれた環境など、普段見えていないものに気付くことができます。その時に人は成長し、新しい一歩を踏み出すことができます。「人生を歩む」というと前に進もうとしがちですが『歩』の漢字は『少』と『止』からできています。

人生を『歩』む為には、時には『少し』『止』まることも大切。自分のペースで進んでください。最後に、実りある三年間をありがとう。皆さんがこれから自分らしく笑顔でいられることを心から願っています。

## 「大変なときは大きく変わるとき」

三組担任  
林 伊織



三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。この三年間を振り返って、今どんな気持ちでしょうか。多くの仲間を囲まれ、たくさんの経験をしたと思います。友達と喧嘩をしてしまったとき、何もかもうまくいかず心が折れてしまったでしょう。楽しいこともあったでしょう。楽しいことばかりではなかったはず。それでも、卒業という一つのゴールに辿り着いた皆さんは、きっと、この三年間で大きく成長できたことだと思います。

社会に出ると、今まで皆さんを守ってくれた校則がなくなり、何事にも責任がついてきます。納得できないこともたくさん起こり、悔しい思いをするかもしれません。しかし、そんな時に不満や弱音を口に出すのではなく、その悔しさをバネに前を向いて一歩進んでみてください。皆さんは、あきらめず立ち向かう強さがあります。困ったときに助けてくれる仲間もいます。ときには仲間を頼りながら、自分で選んだ道を、自分の力で切り開いていってください。

皆さんと充実した日々を過ごせて幸せでした。自分を大切に、素敵な人生を送ってください。いつまでも応援しています。

## 「諦めない」

四組担任  
谷内 幸司



みなさん、ご卒業おめでとうございます。

ここで今までの高校生活を振り返ってみてください。入学してすぐの自分と今の自分、みなさんは大きく成長できましたか。また、素晴らしい思い出をたくさん作る事ができましたか。先生はみなさんがいるいろんなことを学び、考え、責任ある行動がとれる立派な人間に成長してくれたことを、本当に嬉しく思います。

そんな皆さんも今年の春からはそれぞれが夢や目標に向かって新しい道を歩んでいくこととなります。しかし、その道はまっすぐな一本道ではなく、曲がりくねっていたり、分岐があったり、はたまた大きな壁にぶつかって越えられずに悩んでしまうこともあるかと思えます。ですが、そんな時こそ「諦めない」ことです。

もちろん、諦めないことでそれは達成できるのかという未来は誰にも分らないですが、一つだけハッキリしていることがあります。それは、諦めてしまったら、そこで終わってしまうということです。

一度きりの人生、これからが本番、素敵な夢や目標を叶えてください。応援しています。



### 『未来を見つめて』

五組担任  
長谷川 浩美



「人生100年時代」という言葉を聞いたことがありますか。リンダ・グラットン氏による『ライフ・シフト100年時代の人生戦略』の中で提唱された言葉です。寿命の長期化によって先進国の二〇〇七年生まれの二人に一人が一〇七歳まで生きると言われていて、二〇〇五(六)年生まれのみなさんは、まさにこの時代を生きていくことになるわけです。一〇〇歳まで生きる人生は想像もつかないでしょうが、私たち親世代の、年齢で区切られた「教育・仕事・引退」の人生設計とは全く異なる人生を歩んでいくことは確かです。人によって働き方・人生のイベントの順序や年齢も変わるでしょう。そんな時代だからこそ、今の夢や目的・価値観だけにこだわることなく、変化に応じて自由に方向転換できる柔軟さが求められると思います。そのために、自分でできることや挑戦してみたいことなどを今のうちにたくさん考え、選択肢を増やしておいてください。

「人生一〇〇年」いつ何が起きるかわかりませんが、未来を見つめ続けなければなりません。自分らしい一歩を踏み出し、素晴らしい未来へ！

### 『日々前進』

六組担任  
澤潟 美樹



三年間を振り返り、過去の自分より成長できたところはありますか。「あの時こうしていればよかった」と後悔していることはありませんか。もし私が高校生の時に勉強も部活動ももっと必死になって頑張っていたら、その時目標にしていたことが叶っていたのかなと未だに思うことがあります。だから私は皆に「後悔しないように何事にも必死になって取り組んでほしい」と何度も伝えてきました。同じように後悔した人生を歩んでほしくなかったからです。目標に向かって直向きに頑張る人は輝きを放っています。毎日を無駄にすることなく全力で目標に向かって進み続けてほしいと思います。

### 「道」

道はじぶんでつくる道は自分でひらく人のつくったものはいじぶんの道にはならない

これから歩む人生、楽しいこと、嬉しいこと、辛いこと、悲しいこと、様々なことを経験することでしょう。どんなことがあっても決して立ち止まらず、いつも前を向いて「自分の道」を切り拓いていってください。必ずそこにあなた自身が輝ける場所があるはずですよ。最後に、新しい人生の門出を心からお祝いいたします。卒業おめでとう。

### 『何事にも一所懸命頑張る』

七組担任  
猪上 祐示



あつという間に、三年間が通り過ぎて行きました。君たちは、この三年間で何を学び、何を学べることができましたか。人生を百年とするならば、高校生活はたったの三割にすぎません。だから、高校三年間を有意義に過ごせた人も、そうでなかった人も、本当に大切なのは、これから先の人生なので安心してください。

今まで大きく成長できたのは、自分の努力があったからと感じている人も多いかもしれませんが、実は、周囲の人たちに支えられ、成長できたことがたくさんありました。でも、これから先の人生は、そうはいきません。全部、自分の決断と行動で世間からの信頼を勝ち取って行かなければならないのです。

自らの行動には、ちょっとした勇気が必要です。だからこそ、失敗しても後悔しないように、どうせやるなら、全てにおいて全力で、一所懸命に頑張ってください。今流行りのモノに流されても、月日がたてば古くなります。でも、全力で取り組む姿勢は、月日がたっても、かっこいいままです。かっこいい大人を目指して、社会という大海原に自信を持って飛び込んでください。君たちのこれからの人生が素晴らしいものになりますように。

### 『輝かしい人生を』

八組担任  
池田 真人



卒業生並びに保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。ついこの間入学してきたと思っただけ、もう卒業していくのですね。まさに光陰矢の如しです。

卒業生の皆さんはこの三年間をどのように過ごしたでしょうか。今一度振り返ってみてください。楽しいことばかりではなく、辛いこともたくさんあったことでしょうか。大事なことはその経験から何を得たのか、ということですね。自分から行動すること、継続し続けること、他者を思いやること、自分と向き合うこと、さまざまな発見がこの三年間には詰まっています。ではないでしょうか。ここで得たことは、皆さんの未来に大きな勇気と力を与えてくれることではないでしょうか。時々思い出して、厳しい社会を生き抜く糧としてください。

人によって生き方はさまざまです。他人を羨む必要はありません。あなたの人生はあなたにのみ与えられたものです。たとえ失敗することがあっても、それすらもあなたの人生の糧となります。自分と向き合い、挑戦することを諦めず、人生を輝かしいものにしてください。皆様のご活躍を心から願っています。

### 『千里の道も一歩から』

九組担任  
三國 龍星



この言葉には、どんなに大きな目標があっても、一歩ずつ地道に努力して目標に向かっていくことが大切であるという意味が含まれています。今、皆さんは高校を卒業して新たな「一歩」を踏み出そうとしています。その道は険しく、近道もない苦しい坂道を上り続けることになるかもしれません。ですが、「苦しいときこそ上り坂」です。この道を諦めず、地道に上り続けることができれば、必ず目標を達成することが出来ます。皆さんにはそれが出来る力を持っています。「千里の道も一歩から」何事にも諦めず、努力を続けてください。

最後に、皆さんと過ごした三年間はとても楽しく、充実した毎日でした。皆さんともう毎日会うことができないと考えると、寂しくて仕方ありません。これから成長し、大人になった皆さんに会えることを楽しみにしながら、毎日を過ごしていきたいと思えます。「卒業おめでとう。かけがえない思い出を与えてくれてありがとう。」

### 『終わり良ければ全てよし』

十組担任  
稲垣 陽一



この言葉の意味は、「物事は発端や過程よりも最後の締めくくりが大事」「物事は最後まで良ければその過程がどうであつても問題にならないこと」樂觀的にも聞こえ、過程を重視してはいないようなニュアンスも感じ、この言葉があまり好きではないのですが、私は、「よし」を「よし」ではなく「由(よし)」と考えるようにしています。題名のは、「よし」をひらがな表記したのは、私の解釈があるからです。由の意味は、「よりどころ・よって来た筋道・出所・いわれ・わけ」です。「終わり良ければ全てよし」つまり、私は「最後に良い結果が出たということ、それまで自分がしてきたことや周りが出てくれたこと全てが、その結果に繋がったこと全てが、一良い結果が良い過程を歩んだ証明である」という考えを持っています。みなさんが高校生活の終わりに際して、この瞬間を「よし」と感じるのであれば、それは辛いことも嫌なこと、悩んだり、怒られたり、反抗したり、喧嘩したり、全て含めて良い結果への「由(筋道)」であり、この三年間経験した出来事に何一つ無駄なことではないでしょうか。そして卒業式を、「よし」と感じて終えられたのであれば、三年間は総じて「よし」だったのではないかと。

これから先、その日一日の終わりに「よし」と思えるよう、一瞬一瞬を精一杯過ごして下さい。そして、一年の終わりに皆さんの人生の節目にも「嬉しい思い出だけでなく悲しい別れの時」も、「よし」と思えるような筋道を歩んでいって下さい。卒業おめでとうございます。

## 「自分らしい人生を」

十一組担任  
渡来 真人



三年生のみなさんご卒業おめでとうございます。十一組のみんなとは一年間という短い間でしたが、笑いがあつたり、ぶつかりあつたり、とても濃く、充実した時間を過ごさせてもらいました。

さて、みなさんの高校生活で記憶に残っていることはどんなことでしょうか。私の学生生活で特に記憶に残っていることを思い返すと、部活の試合で負けて悔しかったこと、先生に叱られてつらかったこと、失恋して悲しかったこと、希望する進路に進めて嬉しかったこと。そうした感情を動かされた瞬間が強く記憶に残っています。みなさんも三年間の中で感情が動かされた出来事がたくさんあつたと思います。それが、高校生活の中で得たみなさんの財産です。今後の人生でも、それを積み上げて良い大人になっていくってください。

人生は一度きり、後戻りは出来ません。誰にも真似できない自分らしい人生を歩んでいくってください。そして、たまには母校である金光藤蔭高校に帰ってきて元気な顔を見せに来てください。みなさんの人生を心より応援しています。

## 「出会いを大切に」

一組副担任  
丸目 恵三



時間は一秒ずつしか進まないのに、三年間はあつという間に過ぎた気がする。卒業は一つの区切りであつて、終わりではない。むしろ始まりの鐘の音のようだ。

子供の頃遠く感じた道も、大人になったらこんなに近かったのかと驚いてしまうように、今までたいへんだと思つてきたことがとても小さなことのように感じることもある。でもその時はいい感じだった。成長とともに、成長したからこそ、小さく思える。それはその時いい感じだった。一所懸命頑張ってきたからこそ得られた生長だ。

それはこれからも同じことがいえる。今この瞬間を一所懸命生きることに未来の成長となる。その時大切にしたいのは出会いだ。それは追い求めている、必ず現れる。それは求めているものとは限らない。人との出会いかもしれない。単なるヒントかもしれない。しかしその出会いによって、あなたの中で化学変化が起こり、あなた自身が生まれ変わっていく。これからの人生に幸あらんことを。ボンボヤージュ！

## 「あなたのこれからの人生に」

二・三・五・六組副担任  
和田 実穂子



答えがある問ばかりをあなたたちに投げかけてきたわけじゃないけれど。テストではない「正解」を求めていました。

放課後クラスから漏れ聞こえる「正解」の歌声がとても美しく、なんていい歌なのかしらと思いつつ廊下を歩いたことが何度もありました。歌そのものに増して、歌う姿が本当はとても愛しくて、胸に響くものになったのかも知れません。

さあこれからの人生…どんな人と出会い、どんな幸せを見つけていくのでしょうか。

過去は変えられないという人もいますが、今が過去になるのだから、自分自身でどんな過去も変えていけるはず。現在が過去も未来も作っていくのです。

逃げずに、目をそらさずに、今を生きてください。

あなたのこれからの人生に幸多からんことを祈っています。

## 「あなたのこれからのこれまでを決める」

二・三・五・六組副担任  
沖野 登



そもそも学校に通うことをなぜ「登校」というのでしょうか。上り坂のつべんに学校があるようなしんどさを感じますね。今年の卒業生の中にも、小中学校時代に「行きづらさ」を経験した人がたくさんいます。この三年間「しんどい」「帰りたい」を何度聞いたことでしょうか。

そんな中、エンカレッジコース在籍の卒業生のうち四割近くが皆精勤として表彰されました。三年間無遅刻、無欠席です。私は四十年近く中学校に勤め、不登校の対応に苦労してきましたので、改めて感じました。一人ひとりに「学校に行くねん」という強い意志が必要なのと、それがたやすいことではないということ。文字通り急な坂道を登り続けた三年間、いや一年生の時は、槍ヶ岳（やりがたけ）の穂先をよじ登るくらいの勇氣と信念がいったと思います。エンカレッジコースだけでなく、そうやって過去の自分という立ち方はだかる壁を乗り越えていった君たち、心から拍手して、敬意を表したいと思います。そして、最後に次の言葉をはなむけとして贈りたい。「あなたのこれからの、これまでを決める。」

どうかそのがんばりが光り輝くような生き方をして下さい。卒業おめでとう。

## 「卒業おめでとう」

四・七・八組副担任・就職主任  
植田 崇行



卒業生のみなさん、卒業おめでとう。

僕たちはちょうど三十年前、今の君たちと同じように高校を卒業しました。「やつと終わった」という解放感が心の九割を占めた思い出に浸ることなどほぼなかったように思います（楽しい思い出が一切ないわけじゃないですよ）。では僕にとつて高校生活は人生の暗黒時代かというところではなく、今でも迷った時に高校時代の恩師の言葉を思い出したり、壁を乗り越えてからふと考えると高校時代にやったことや聞いたことが元になって、最後までがんばれたことに気づいたりすることがあります。

君たちも高校生活を振り返ってみれば楽しいことも嫌なこともあつたでしょう。でも今一つの思い出としての高校生活がどうだったかということよりも、本当に大切なのはこの三年間が君たちのこれからにどう生きていくのかということだと思えます。いつの日か「あの時は腹が立つたけど、やつと先生の言つたことが分かった」なんて思う日が来たと言つたら、僕としては「しめしめ」と言つたところだ。

## 「おもしろい人生をつかむ」

十・十一組副担任  
渡邊 みこと



ご卒業おめでとう。皆さんにとってどのような三年間でしたか。一日一日が長く感じた日々があつたという間に過ぎ、卒業の日となりました。入学式を迎えた三年前の四月、私は地元の岐阜県を離れ大阪にきました。みなさんと同じ、新しい環境での学校生活が始まりました。学校生活とともに過すなかで、朝から口うるさく生徒指導をしたこと、楽しかったことや嬉しかったこと、ときには悩んだことがありました。振り返れば、全てが充実した時間だつたと感じています。みなさんのおかげで、先生という立場として成長できた三年間でした。

これから新たな環境での生活が始まるみなさんに言葉を送ります。心に残っている恩師の言葉です。

「面白きこともなき世もおもしろく」

世の中を面白いと思えるかどうかは自分の心次第。という意味です。みなさんがやりたいことを見つけたとき、自身の人生を面白くできるチャンスです。そのために、知る・聞く・考える・行動する、やりたいことのためならば諦めずに一生懸命学び続けてください。これからの全力で応援しています。充実した三年間をありがとう。